

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 日々の朝礼にて会社理念の確認を行い、一日の目標を決め、それに沿った実践を行っている。 | 法人理念と経営理念があり、毎朝事務所で行われる朝礼で唱和をし、職員一人ひとりがその日の目標を発表して一日がスタートしている。「居心地のよさの追求と新しい介護の創造」という経営理念を理解し職員は毎日の業務に就いており、利用者一人ひとりに合わせた介護を目指す姿勢が見られる。理念を事務所に掲示し契約時には利用者や家族に伝えている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 夏祭り等の行事には地域住民へ積極的にアピールをし参加をお願いしたり、中学生の職場体験の受け入れなども行っている。地域の芸能祭へ作品の出品もしている。 | 区費を支払い自治会に加入している。法人代表が地域の住民でもあり、ホーム前のフラワー街道の花植え準備など地域の作業への参加や区役員も引き受けている。地域の芸能祭に利用者の共同作品の貼り絵や塗り絵なども出展している。小学校の音楽会の招待を受けたり中学生の職場体験の受け入れ、幼稚園との交流などを継続している。回覧板でホームの「夏祭り」を広報し多くの参加があったという。ボランティアの訪問もあり利用者の楽しみの一つとなっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症対応型のグループホームとして、地域の皆様へ理解していただくような活動を目指している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 取り組み状況を報告し、質問やご意見をお聴きしながら、サービス向上を図っている。 | 家族(2名)、中原区と八幡区の区長、中原区と八幡区の民生委員、老人クラブ代表、市職員、地域包括支援センター職員などで構成され定期的に開催している。利用状況や行事、事故、職員の異動などの報告をしている。特別な行事があるときには委員の方が参加しやすいよう随時曜日と時間を変更し、利用者の楽しむ姿を見ていただき、委員からの感想(文書)を運営に役立てている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 毎月市の介護相談員の方が来訪されている。地域包括や地区のケアマネージャーと入居状況などの連絡をし、ご利用者のご紹介を頂いたり、施設見学の受け入れをしている。 | 市の支所へ直接出向き問題点などを伺っている。市主催の会議やケアプラン指導研修等にも参加している。市から訪問歯科利用についてアドバイスを受け、利用者の生活の向上に活かしている。毎月、介護相談員の訪問もある。介護認定の更新申請の代行を家族の依頼を受け行っている。調査時は(家族同席も含め)職員が利用者の状況を正しく伝えている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年1回内部研修を行い、原則拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は外部侵入防止のための夜間帯のみとしている。 | 年1回身体拘束、虐待防止の研修を行っている。資料を配布し読み合わせ、具体事例を挙げて学ぶなど職員の理解を促している。日中は玄関のカギは掛けていない。帰宅願望のある方への対応は、見守り、声掛け、一緒に外出する等、利用者が納得するように対応している。転倒防止のため家族了解の下センターマットを使用している方がいる。 | |

グループホームあゆみ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 年1回は内部研修を行い、高齢者虐待防止について意識している。 常にご利用者の状態や職員対応の変化に注意を払っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員により知識や理解度に差があるため、今後外部研修等も利用して、勉強する機会を設けたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、時間をかけて内容を説明している。介護保険法改正などの場合は、その都度お便りを出したり個別説明をしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご利用者の日々の要望やご来訪時のご家族のお話しは、常に聴く姿勢をもち職員間で迅速に話し合い解決するよう努めている。 | 利用者の多くの方が自分の意見を伝えることができる。家族の来訪は毎週の方がいるが、半数近くの方が独居よりの利用者であり家族が県外居住の方も多く、訪問も数ヶ月に1回であったり、親族が交代で見える等、様々である。遠方の家族との連絡は電話や手紙で行っている。昨年の夏祭りの時に「家族会」を作り、気楽に家族が話ができる集まりとして進めていきたいとしている。A3の用紙の「あゆみ新聞」を年4回発行し、表面にホーム全体行事の写真、裏面に担当職員による利用者ごとの「様子の記録」・「写真」の欄を設け家族へ送っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回ミーティングを開催し、話し合いの機会を設けて意見交換をしている。 また適宜、個別面談行っている。 | 月に1回ユニット毎にミーティングを開催している。業務連絡やカンファレンス、職員からの問題提起などが行われている。地域のグループホーム連絡会に加入しており、職場交流が行われている。職員が他の施設で職場体験を行うことで自己啓発や自信につながる事例もあるという。職員はユニット固定であるが西と東ユニットで配置転換をすることもある。毎朝発表している目標ノートに1ヶ月ごとに管理者のコメントを記し職員へ伝えている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 査定をし賞与等に反映させている。 向上心が持てるよう、セミナー等への参加を促したり、職場環境への要望等を取り入れたり、モチベーションアップのための配置転換をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ユニットリーダーからの情報収集や個別面談などにより、一人ひとりの力量を把握している。個々にあったキャリアアップ研修の参加機会を検討している。 | | |

グループホームあゆみ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修に参加する機会を増やし、同業者とのネットワークが作れるように取り組みたい。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人のお話を傾聴し時には1対1の対応をしながら、不安や困っていること等を予測して支援する事で、ご本人に寄り添った関係作りをしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族のお話を肯定的にとらえ、信頼を頂けるように努めている。 施設対応で出来ること、出来ない事を誠実に話す。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人とご家族が安心できるニーズをとらえ、支援計画を作成し実践している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食事の準備や片付け、清掃などの生活の場面で、出来る事をしていただき、お互いが必要とされる関係づくりに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 定期的な経過報告にて、ご本人の暮らしの様子、健康状態などお伝えし、ご家族からのご要望を支援に活かすよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今まで大切にしていた生き方を尊重し、その場所へ出掛けたり、知り合いのご面会を通して関係継続できるよう努めている。 | 友人や親せきの訪問がある。同じ法人が運営する有料老人ホームの入居者と職員の紹介で知り合い、お互いの居室を訪問しながら交流している方もいる。携帯電話を所持し家族や友人と連絡を取り合っている方、正月に泊りで帰宅する方、お盆に家族と一緒に墓参りする方等、利用者一人ひとりの生活スタイルを大切にしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーションや雑談を通して、ご利用者同士のコミュニケーションがとれ、支え合えるように職員が橋渡しする支援に努めている。 | | |

グループホームあゆみ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 以前のご利用者の現況をお聞きしたり、相談があれば適宜支援している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人と定期的に思いや要望を伺い、可能な限りで要望に応えるよう努めている。要望の把握が困難な場合は、本人本位でその人なりの自立支援に努めている。 | 家に帰りたいという方には個別に傾聴するように努めている。利用者の話に耳を傾け、利用者が話すことによって落ち着くことが多く、裁縫やレース編みなど利用者の出来ることや興味のあることを通じて自信や元気を持っていただけるように支援している。「体がポロポロになって」、「何にもできなくて、みんなの世話になって」、「ありがとう」などの話をし、翌日には「今日も楽しい1日が始まる」と楽しいつづきも聞かれるという。毎日日記をつけている方もいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人およびご家族と以前関わっている福祉関係者より情報の収集をしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活記録や勤務交代時の申し送りにより、状態把握をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成担当によるケアプランを基に、月1回のミーティングにて課題を検討して支援方法を全員で確認している。 | 利用者や家族の要望を聞き、生活記録、ミーティングなどを参考にしわかりやすい言葉で計画作成担当者が作成している。職員による利用者の担当制をとっている。居室担当者が評価チェックを毎月行い、毎月行われるミーティングで報告しモニタリングを行い、プランの変更か継続かを職員で話し合い、情報の共有化を図っている。家族が来訪した時、介護支援経過表を見ていただきプランの説明をし同意を得ている。遠方の家族へは郵送し同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 一人ひとりの生活記録をとり、ケアの実践や気づき等を職員間で共有し、日々の支援に活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご家族が外出や通院等の支援ができない時には、代理でのサービス提供をしている。 | | |

グループホームあゆみ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近くの文化センターに散歩や同敷地の図書館に立ち寄り、本を借りたり休憩をとったりしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご希望に応じた通院および往診を受けて頂き、健康管理や服薬管理について相談や指導を受け、状態に合わせた支援が出来るようにしている。 | 利用開始時にかかりつけ医の継続をお願いしている。かかりつけ医のいない方や家族の要望でホーム協力医に変更する方もいる。協力医による訪問診療が1ヶ月に1～2回行われている。定期受診は基本的に家族付き添いでお願いしている。訪問診療されたときや受診で変化があった場合には管理者が窓口となり家族へ連絡している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週3日の非常勤看護師へ、一人ひとりの状態変化や気づきを伝え、連携した支援を行っている。看護師との24時間相談体制も整っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時には看護サマリー等による情報交換を行い、必要時には電話での確認をしている。また、退院時の病状説明や処置方法の確認に同席している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に終末期におけるご希望を確認している。ターミナルケアにおいて、ご家族の意向を尊重し、ホーム内でできる事を説明の上、地域関係者との協力によりホームでの看取り体制も整えている。 | ホームで出来ること、できないことを説明し、利用者、家族の意向に沿った対応をしている。昨年秋に終末期を経ての看取りが行われた。職員に看護師資格者がいるが看取り体制になった時は医療との連携により訪問看護を利用し、体調変化などの相談をしながら支援した。利用者の終末期ケアのマニュアルを作り職員にも不安がないように対応した。職員に看取り後の感想を書いてもらい、振り返りの学習資料として看取りケアについての理解を深めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時事故発生時の対応についてマニュアルがある。AEDの設置をし、ホーム内で消防署員による救命講習を実施した。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災についてはスプリンクラー、自動火災報知器を設置しており、年2回の避難訓練を実施している。緊急連絡網を作成し、協力体制を作っている。 | 年2回避難訓練が行われている。消防署に計画書を提出し消防署員の参加指導の下行われた。消火器による消火(利用者も参加)やAEDの講習なども行った。春の訓練で避難場所が駐車場では近すぎるとの指摘があり、秋の訓練には離れた場所を避難場所とした。利用者が車いすや手押し車、自力歩行で避難している写真を見ることができた。今後は運営推進会議で消防団員や地域の方の参加をお願いしていきたいとしている。食料品、生活用品の備蓄があり有事に備えている。 | |

グループホームあゆみ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者の尊厳を守る言葉かけや関わり方に努めている。 | 利用者の意向に沿って対応しており、入浴や排泄時の異性介助にも配慮している。地域柄、同じ地区から利用に至った方も多く同姓が多いため、利用者呼び名は何かいいか確認している。地域では年配の方の呼び名も親しみを込めて「○○ちゃん」と呼ぶことが多いという。ホームでも場面場面で対応を変えることもあるが、利用者に対するの尊厳を保った上で対応している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者の思いや希望が自然に出せるような対応に努め、本人による意思決定を尊重している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の過ごし方をどの様にしたらその人らしさが表現できるのか、希望を聞いたり、希望があれば優先して支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 更衣時にご本人に好みの物を選んでいただき、着脱のお手伝いをしたり、季節に合った衣類の提案をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの好みの物や季節感が出るように心掛けている。 食器拭きやテーブル拭きなど、出来る事は一緒に行っている。 | 介助を必要とする方や自立している方などがいるが、職員も一緒に和気あいあいの食事の光景が見られた。食材は業者からの配達で用意している。当番が冷蔵庫を見ながら利用者何に何が食べたいか聞きながら献立を立て調理している。ブランド米として有名な地元のお米を炊いたご飯が毎食食卓に上り、誕生会には出前のお寿司や、ケーキでお祝いをしている。大晦日の年越し蕎麦は代表者の手打ちが振舞われている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分量はその都度チェックし、不足ぎみであれば補えるように支援している。 食事は嚥下状態に合わせて、個別に食形態を変え、水分はトロミ剤使用やゼリーにて摂取量確保の工夫をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、個別支援にて口腔ケアを実施している。適宜マウスウォッシュを使用しての口臭予防や定期的に義歯消毒をして清潔保持をしている。 必要時は市の訪問歯科を利用しアドバイスを頂いている。 | | |

グループホームあゆみ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレへの誘導を行っている。夜間のみポータブルトイレ使用もしながら、可能な限りのトイレでの排泄が出来るよう支援している。 | 時には失敗することもあるが多くの方が自立している。自らトイレに行かれる方も時間を見ながら声掛けした方がいいと判断したときは利用者の自尊心を傷つけないように声掛けしている。また、オムツ対応の方も1日1度はポータブルトイレかトイレに座り排泄をしていただけるようにしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | バランスの良い食事提供と意識的に食物繊維を多く摂取できるようにしている。朝食時の牛乳や夕食時ヨーグルトの提供により、自然排便を促している。一人ひとりにあった適度な運動を取り入れ、便秘の予防に務めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴したいという気持ちを大切に、ご本人のペースで入浴できるよう、時間や回数、介助する職員や介助方法も個々に合わせて工夫している。 | 予定者は決めず毎日お風呂の準備をし1週間に2回は入浴できるように声掛けしている。その日の利用者の体の状況や気分等、職員が様子を見ながら利用者一人ひとりに声掛けし、注意しながら入らせている。明るく爽やかな浴室に気持ち良く入れるように準備し1日3名位の方に入浴をさせていただいている。職員の見守りで30分から1時間くらい入浴している。車いすの方には職員2人対応で浴槽に入らせている。柚子湯や入浴剤の使用もある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人の体調や希望により、休息して頂き、消灯も時間を決めずに、個別のペースで消灯して頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人ひとり薬の目的、副作用・用量については、処方時に説明書を個別管理して、確認している。処方変更時は情報共有して、状態変化に注意している。内服支援は2人体制で確認し、誤薬防止に務めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりのできる力を活かした役割を持って頂き、日々の生活習慣になっている。外食やドライブ等の外出支援も取り入れて気分転換をはかっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候と個々の身体機能に応じて、出来るだけ屋外へ出る時間を作っている。季節を感じられる場所へドライブや、気分転換に同敷地内のデイへの訪問や近隣コンビニへの買物などの支援をしている。 | 暖かい日や天気の良い日には近所を散歩している。近くの文化センターへおにぎりを持って散歩がてら出掛け、センターの前で頂くこともある。お花見、紅葉狩りなどは毎年決まって出かけているが、利用者の「行きたいね」の声やニュースなどの情報でイルミネーションを見たり、隣市の道の駅やショッピングセンターへ買い物兼外食などに出かけている。図書館へ定期的に行かれる方もいる。 | |

グループホームあゆみ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現金をご本人が所持する事はほとんど無いが、近隣コンビニの買物やぱんやヤクルトの訪問販売の際には、立替でお金の使用が出来るようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族等への電話はご希望に応じて掛け、お話出来るように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用スペースは不快にならない様、特に清潔を心がけている。玄関やリビングには花や植木を置いたり、季節感が感じられるような飾りつけを工夫している。 外出や行事の写真を掲示したりしている。 | 玄関を中心に東西にユニットがあり、各ユニットのリビングからは庭や駐車場を見渡すことができる。ユニット入り口には職員の写真と名前が掲示してあり来訪者を迎えている。利用者の共同作品がリビングの壁に飾られ華やかであった。居室入り口にはわかりやすい大きな字の表札がかけられている。利用者によってはわかりやすい目印がついたドアも見られた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ご本人の希望に沿った場所で過ごせる様、食事テーブルの他にソファを置いて、その時々で過ごして頂いている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人の使用していた馴染みの物や趣味の物を持ち込んで頂き居心地良く、また使いやすい様に配置等に配慮している。 | 居室にテレビ、使い慣れたテーブル、ソファ、衣装ケースなどを持ち込み、壁に表彰状や勲章を額に収め飾られている利用者がある。自室のテレビが見やすいようにベッドを配置したり、40年位前の人気歌手グループの写真が印刷されたゴミ箱を置いたり、一人ひとりの趣味などに沿い楽しく住みやすい居室づくりがされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご自分の居室やお手洗いの場所などが判りやすい様に、矢印や目印を掲示し、スムーズに生活できるように工夫している。 | | |